

教科	国語	科目	現代の国語	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	-------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	筑摩書房「現代の国語」
副教材等	問題集、便覧

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
授業の進め方、学習方法	1. 評論では、段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 2. 実用的文章などを用いながら探究的な取り組みを行う。読むこと、書くこと、聞くこと、話すことなどを粘り強く、学習課題に沿って、具体的な言語活動を行う。 3. 単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。

学習計画			
学期	単元	学習内容	評価規準
1学期	読解『境目』	①「～の境目」ということばで表現できる過去の経験や出来事を書き出す。 ②グループ内で書き出した内容を紹介し、発表する。③グループで話し合ったことをふまえて、クラスの前で発表する。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。比喩、例示、言換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く要点を把握し学習課題に沿って視点を変えてみることを理解し、自ら論点における課題を調べようとしている。
	読解『サイエンスの視点、アートの視点』	①「サイエンスの視点、アートの視点」を参考に、自然の中で見つけた驚きや、物語や芸術作品に接して感動したことを書き出す。②①で挙げたことから、どのような「問い」を立てることができるか、付せんに書き出す。③①②で挙げたことをグループ内で発表し、興味深い「問い」と興味深いと感じた理由を説明する。	【知識・技能】 ことばについて書かれた本教材を通して、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く解釈についての筆者の考えを理解し、学習課題に沿って、本文の要点をまとめようとしている。
	実践『質問する力を育てよう』	①「スピーチQ&A」で質問の練習をする。	【知識・技能】 ことばについて書かれた本教材を通して、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く解釈についての筆者の考えを理解し、学習課題に沿って、本文の要点をまとめようとしている。
	読解『ことばとは何か』	①日本語にあってほかの言語にはない名詞にはどのようなものがあるか調べ、互いに発表する。②他の言語における気象用語に関して、日本語とは「含まれている意味の厚みや興行が違ふ」例をグループで調べ、それぞれ発表する。	【知識・技能】 ことばについて書かれた本教材を通して、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く解釈についての筆者の考えを理解し、学習課題に沿って、本文の要点をまとめようとしている。
2学期	読解『贈り物と商品の違い』	①本文中の会話部分以外のカギカッコについて、どんなことばに付されているか、何を基準にどのような目的で付されているか、考え、話し合う。 ②身近なお祝い事の習慣を取り上げ、そこにどのような演出がほどこされているか、その意味を調べる。	【知識・技能】 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思考・判断・表現】 「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて捉え直したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的にメディアを使って情報を収集し、学習課題に沿って各メディアの特徴や長所や短所について話し合い、自分の考えを深めようとしている。
	読解『兎が自分でつづつて語る生活の話』	①文章と筆者のスケッチを比較することでどのようなことが読み取れるか話し合う。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
	実践『メモ・ノートの取り方・活かし方を学ぼう』	②筆者の推論過程を、順序だてて図解する。 ③表口絵の写真や絵画を観察し、そこから読み取れることを文章にまとめる。グループ内で発表を行い、メモを取る。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
	読解『誰かの靴を履いてみること』	①本文中の会話文と描写が果たしている効果について話し合う。 ②過去に体験した出来事の中から、特に印象に残っていて、人に伝えたいものを一つ挙げる。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
3学期	読解『マルジャーナの知恵』	①「マルジャーナの知恵」を参考に、グループで、印象に残っている昔話や寓話、エピソードを持ち寄り、なぜそれらが語り継がれてきたのかを話し合う。 ②①の物語の中に、現代の私たちにとってのどのような意味や教訓が発見できるか、話し合う。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
	実践『議論の前提を明確化しよう』	①自分が関心をもったテーマについて記事をもちより、主張を支える根拠や、筆者の前提について話し合う。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
	読解『記憶する体』	①「記憶する体」を踏まえて、目を閉じて、手で机に触れ、隣の人に机の状態を説明する。 ②通学路や校舎内を観察し、障害を持っている人の立場に立って、改善できる点を話し合う。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
	読解『瓦を解かないこと』	①新聞や雑誌の記事の中で使われている熟語を抜きだし、漢字の語義など意味の組み立てを調べ、同音異義語・類語・派生語などの系統図に整理してノートにまとめる。 ②新しい熟語を作る。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。
3学期	読解『リスクと近代社会』	①教材本文にある筆者の問いかけとその解答を順序立ててまとめ、趣旨を200字で書く。 ②現代社会の具体的なリスクの一つ挙げ、考えられる対策とその問題点について分析し、自分の考えをまとめる。	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く筆者の考えと引用を読み解き、学習課題に沿って実社会における生き方について筆者の主張を理解し、自分の考えをまとめようとしている。
	実践『意見を文章にまとめてみよう』	①考えを小論文に組み立てる	【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く筆者の考えと引用を読み解き、学習課題に沿って実社会における生き方について筆者の主張を理解し、自分の考えをまとめようとしている。

成績評価方法	1 定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2 学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教科	国語	科目	言語文化	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版「言語文化」
-------	------------

副教材等	問題集、古文文法書、文法ノート、漢文句形書、句形ノート、便覧
------	--------------------------------

学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	--

授業の進め方、学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 文学的文章・詩歌に描かれた人物・情景・心情などを、表現に即して読み味わい、的確にとらえる。 文や文章の組み立て、語句の意味・用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。 文語のきまり(歴史的仮名遣い、用言・助動詞の用法、係り結び、敬語法、音便等)を理解する。 訓読のきまり(訓点、書き下し文)を理解し、漢文特有の表現に親しむ。
-------------	---

学 習 計 画			
---------	--	--	--

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	古文学習の基礎 ・歴史的仮名遣い ・古語と現代語 ・五十音図といろは歌 古文 説話「児のそら寝」 小説「羅生門」	古文を読むための基礎を身につける。 文中の主語の省略を補って古文を読む。 品詞の区別ができるようにする。動詞の活用を覚える。 古典の授業開きとし、今後の古典学習のガイダンスとする。 平安期を想定した小説に親しみ、話の展開や主題を読み取る。 作品に即して描かれた場面や作中人物の心情を的確にとらえる。	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
	漢文学習の基礎「入門」 送り点、送り仮名、書き下し文、置き字、再読文字・語順 漢文「故事」 矛盾、狐借虎威、古文随筆「徒然草」「ある人弓射ることを習ふに」 物語「伊勢物語」芥川 東下り 短歌・俳句	漢文を読むための基礎を身につける。 現在の言語生活にも生きる故事成語について、理解と関心を深める。 随筆を読み、昔も今も変わらない人間の心理を探る。 歌物語を通して登場人物の心情を読み取り、叙情性を味わう。 古文の表現について理解と関心を深め、観賞する力を養う。 形容詞・形容動詞の活用、助動詞の活用、意味、接続を理解する。 短歌・俳句の言葉のはたらきを知り、表現の特色を理解する。 それぞれの作品について鑑賞文を作り、相互に批評し合う。	【知識・技能】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。句切れ・季語・不定型などの知識が理解できたか。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって、古典を学ぶ意味について考えを持つようとしている。
2学期	古文 物語「竹取物語」天人の迎へ 漢文 故事成語「矛盾」「朝三暮四」 小説「城の崎にて」	物語に描かれた平安時代の人々のものの見方や感じ方について知る。 伝奇物語の世界を通じ、夢や空想の世界にふれる楽しさを味わう。 漢文における論理展開と簡潔な表現とを読み味わう。 故事成語のについての理解を深める。漢文の重要表現の種類と用法を確認し、整理する。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	【知識・技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考えようとしている。
	古文 日記文学「土佐日記」 門出 帰京 漢文「唐詩」 静夜思 山行 送元二使安西 八月十五日～ 漢文 史話「管鮑之交」	月の異名、方角、時刻を理解する。 日記文学に触れ、心情がどのように描かれているかを理解する。 日記の表現上の特色について、理解と関心を深める。 漢詩文を読み、特有の表現に慣れ、内容を理解する。 漢詩の形式を理解する。 情景描写に注意して作者の心情を味わう。 史話のおもしろさを味わい、中国の歴史に親しむ心を養う。	【知識・技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。
3学期	古文 和歌 「万葉集・古今集・新古今集」 漢文 論語 孟子 文章 雑説	和歌の魅力を知る。 三つの歌集の特徴を把握し、時代の変化との関連について考察する。 孔子、孟子の生き方、考え方を学び、学問・人生・政治について考える。	【知識・技能】 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 【思考・判断・表現】 孔子の思想に興味を持ち、ものの見方や考え方を豊かにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで桜に関して書かれた多様な形式の作品を読み比べ、学習課題に沿って、日本文化における桜のありようを探ろうとしている。

成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 <p>以上の全てを対象に、総合的に判断する。</p>
--------	---

教科	地歴・公民	科目	公共A	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
----	-------	----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	公共（東京書籍）
副教材等	2023フォーラム公共(とうほう) 公共ワークノート(東京書籍)

学習目標	<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
授業の進め方,学習方法	教科書、資料集で得た知識を活用するワークショップ形式の授業を実施する。学習の成果をレポートにまとめ、発表する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	公共的な空間における基本的原理	民主主義とは 立憲主義とは 人権保障の意義と展開	【知識・技能】 民主政治の考え及び憲法の意義を理解できる。 【思考・判断・表現】 民主主義・立憲主義についての理解をもとに、人権が保障される意義を改めて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 人権を保障していく過程で起こりうる問題や課題等について考えることができる。
	公共的な空間における基本的原理	日本国憲法の基本原理 判例研究 公共的な空間における協働とは	【知識・技能】 日本国憲法の基本原理について理解して、判例について学ぶことができる。 【思考・判断・表現】 民主政治についての理解を元に、様々な社会課題について自らの考えを持つことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会の一員として社会課題の解決に積極的に取り組み、主権者としての役割を果たすことができる。
2学期	国民の司法参加	司法の仕組みと役割 刑事司法と司法参加の意義 模擬裁判	【知識・技能】 司法権を理解すると同時に、裁判に関する基本的知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 裁判を行うにあたって、様々なことが保障されている原因を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 人権が侵害されないように裁判を行うために、これからの裁判のあり方を考えることができる。
	市民生活と司法 持続可能な社会づくりに参画するために	市民生活と法 多様な契約 消費者の権利と責任 探究のプロセスを学び、プチ探究に取り組む	【知識・技能】 公法と私法の違いを理解したうえで、消費者としての基本的知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 消費者としてどのような行動が正しいのかを判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内で出てきた課題の解決に向けた情報収集に積極的に取り組み、まとめることができる。
3学期	国際社会のルールとしくみ 国際平和への課題 グローバル化する国際経済	国際社会の成り立ち 国際連合の役割 現代の紛争とその影響 平和な国際社会に向けて SDGsの達成に向けて	【知識・技能】 国際社会のルールとしくみを理解する。 【思考・判断・表現】 国際社会のルールとしくみについての知識を活用し、様々な国際問題について、解決の道筋を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な国際問題についての情報に積極的にアクセスし、自らその解決について考える。

成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価を行う。</p> <p>【思考・判断・表現】 レポート課題や授業内での発表によって評価を行う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察によって評価を行う。</p>
--------	---

教科	地歴・公民	科目	公共B	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
----	-------	----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	公共（東京書籍）
-------	----------

副教材等	2023フォーラム公共(とうほう) 公共ワークノート(東京書籍)
------	----------------------------------

学習目標	<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
------	--

授業の進め方、学習方法	教科書、資料集で得た知識を活用するワークショップ形式の授業を実施する。学習の成果をレポートにまとめ、発表する。
-------------	---

学 習 計 画			
---------	--	--	--

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	民主政治と私たち	私たちの民主政治 政治参加と選挙 地方自治の仕組みと役割 国会 / 内閣のしくみと役割 世界の政治体制	【知識・技能】 政治の意義や選挙の役割を理解できる。 【思考・判断・表現】 様々な政治体制の仕組みを理解したうえで、それぞれの問題点を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な政治体制を比較して、これからの政治体制のありかたを考えることができる。
	民主政治と私たち 公共的な空間をつくる私たち	これからの政治体制を考えよう 政党と利益集団 メディアと世論 青年期と自己形成の課題 自己形成と社会への参画	【知識・技能】 青年期の定義や、青年期に抱える問題点を理解できる。 【思考・判断・表現】 社会について知ると同時に、個人として必要なことは何かを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 これから政治に対してどのように関心を持ってほしいのかを考えると同時に、社会における自分の役割を果たすことができる。
2 学期	法の働きと私たち	法と社会規範の役割 法の成立と適用 模擬立法	【知識・技能】 法や規範の意義や役割を理解する。 【思考・判断・表現】 法や規範の意義や役割を理解し、社会で発生するトラブルや紛争の解決策を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々なトラブルや紛争の事象について自ら調べ、その解決策を考えることができる。
	現代の経済と市場	私たちと経済 / 現代の企業	
2 学期	現代の経済と市場	市場経済のしくみ 価格決定のメカニズム 金融の仕組みと働き 社会保障の考え方 社会保障の課題とこれから 年金制度と資産運用	【知識・技能】 市場のメカニズムと社会保障についての基本的知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 社会保障の抱えている課題を解決するためや資産運用を行うために、何をしなければならないかを話し合い、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 これからの社会保障について考えとともに、自らの資産をどのように運用するかを考えることができる。
	グローバル化する国際経済	国際金融のしくみと動向 貿易のしくみ 国際経済の諸課題 SDGsの達成に向けて	【知識・技能】 円高円安など、国際経済の基本的知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 昨今の経済情勢をふまえて、これから世界が抱える経済問題について議論ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な国際問題についての情報に積極的にアクセスし、自らその解決について考える。
3 学期			

成績評価方法	【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価を行う。 【思考・判断・表現】 レポート課題や授業内での発表によって評価を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察によって評価を行う。
--------	---

教科	数学	科目	数学Ⅰ・数学Ⅱ	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	4単位
----	----	----	---------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 数研出版「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」

副教材等 傍用問題集(サクシード数学Ⅰ+A, サクシード数学Ⅱ+B)、参考書(チャート式基礎からの数学Ⅰ+A, チャート式基礎からの数学Ⅱ+B)

学習目標	数学Ⅰ 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
授業の進め方,学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感できるようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習,長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	数学Ⅰ 第1章 数と式 1. 式の計算 2. 実数 3. 1次不等式 数学Ⅰ 第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	式の展開と因数分解について、目的に応じて式を変形したり、見直しをもって式を扱ったりすることができるようにする。絶対値や根号を含む式の計算ができるようにする。不等式の性質と1次不等式の解法について学び、連立不等式や文章問題、絶対値がついた不等式についても扱う。集合に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。集合の包含関係や要素の個数など、集合に関する基本的な事項を学ぶ。また図表などを用いて集合について基本的な事項を理解し、総合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができるようにする。論理を考え、真偽を判断して証明するあるいは反例を1つ挙げていくことにより実生活に生かす。	【知識・技能】式の形の特徴に着目して変形し、展開公式が適用できる。1次不等式、連立不等式を解ける。集合の包含関係や反例などを調べることで、命題の真偽を決定することができる。 【思考・判断・表現】身近な問題を1次不等式の問題に帰着させることができる。命題の真偽を、集合の包含関係に結びつけてとらえることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】1次不等式の応用問題を解ける。対偶による証明法や背理法を利用し、命題を証明することができる。
	数学Ⅰ 第3章 2次関数 1. 2次関数とグラフ 2. 2次方程式と2次不等式 3. 2次関数と方程式・不等式	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。2次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。2次方程式の解の公式を導き、実数解を持つ2次方程式を解けるようにする。さらに、実数解の個数や様々な2次方程式の取り扱いについて学び、計算ができるようにする。グラフとx軸との位置関係から、1次関数のグラフと1次不等式、2次関数のグラフと2次不等式の関係について理解し、いろいろな計算ができるようにする。	【知識・技能】2次関数のグラフの軸、頂点について理解している。2次関数の定義域がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 【思考・判断・表現】2次関数の値の変化がグラフから考察できる。2次方程式の解や2次関数のグラフとx軸との共有点の個数や位置関係を、判別式の符号から考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】日常生活の中で、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。身近な問題を2次不等式で解決しようとする意欲がある。
	数学Ⅰ 第4章 図形と計量 1. 三角比 2. 三角形への応用 3. 正弦定理と余弦定理 4. 図形の計量	正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比の関係として導入し、その意味を理解する。角を鈍角や、0°、90°、180°の場合まで拡張し、正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また、それらの相互関係について学習し、計算ができるようにする。三角形ABCのそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し、式の取り扱いができるようにする。正弦定理や余弦定理などの活用場面として、平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い、いろいろな図形の辺の長さ、面積・体積などが求められるようにする。また、相似な図形の面積比と体積比、球の表面積と体積についても学習する。	【知識・技能】正弦・余弦定理を用いて三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。三角形の面積、三角形の内接円の半径、正四面体などの体積を求めることができる。 【思考・判断・表現】既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。三角比を測量に応用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】三角形の解法や測量問題を正弦定理や余弦定理を用いて解こうとする。三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	数学Ⅰ 第5章 データの分析 数学Ⅱ 第1章 式と証明 1. 式と計算 2. 等式と不等式の証明 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。データを整理し統計処理をほどこすことにより、内容の分析や推定などを行えるようにする。整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。等式や不等式の性質を用いて式の証明を行い、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	【知識・技能】平均値、分散、標準偏差、相関係数を求められる。二項定理より、展開式やその項の係数を求めることができる。 【思考・判断・表現】散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察する。解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】データを整理し統計処理をほどこすことにより、内容の分析や推定などを行えるようにする。相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明しようとする。
	4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 第3章 図形と方程式 1. 点と直線	複素数を学んでいつでも高次方程式が解をもつことを理解する。また、実際に割り算をしなくても余りが求められる方法を学び、新しい場面でも数学を活用できる態度を育てる。複素数を学んでいつでも高次方程式が解をもつことを理解する。また、実際に割り算をしなくても余りが求められる方法を学び、新しい場面でも数学を活用できる態度を育てる。	【知識・技能】剰余の定理を利用して、整式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。図形的条件(点対称、線対称など)を式で表現できる。直線の方程式を利用して、図形の性質を証明することができる。 【思考・判断・表現】2次方程式の解に関する種々の問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。
3 学期	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方をみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。		

教科	数学	科目	数学A	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 数研出版「数学A」

副教材等 傍用問題集(サクシード数学I+A)、参考書(基礎からのチャート式数学I+A)

学習目標 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

授業の進め方、学習方法 1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感できるようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習、長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第1章 場合の数と確率 1. 場合の数	具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せについて理解し、事象を数学的に考察し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 事象に応じて、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な問題に対して、どのような場合に、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めて、それらの公式を使うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
	2. 確率	具体的な事象の考察などを通して、不確定な事象を数量的にとらえることことの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し、処理できるようにする。	【知識・技能】 確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 【思考・判断・表現】 ・加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 ・複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ・反復試行の意味を理解し、その確率の求め方がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心を持ち、積極的に活用しようとする。
2学期	第2章 図形の性質 1. 平面図形 2. 空間図形	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 平面図形で培った図形のいろいろな概念や定理をさらに空間の図形に対しても応用できるようにする。さらに、体積などの求積も行う。	【知識・技能】 三角形の外心、内心、重心に関する性質や相互関係を証明することができる。円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明できる。 【思考・判断・表現】 様々な平面図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学で扱う図形と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。三垂線の定理について関心を持ち、その意味を理解しようとする。様々な空間図形や多面体に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。
	第3章 数学と人間の活動 1. 約数倍数素数と因数分解 2. GCM/LCM整数の割り算	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。然数を素因数分解したときの素因数に着目して解く応用的な問題について、その考え方に興味を持ち、取り組もうとする。また、その解法を理解し、問題を解くことができる。
3学期	3. ユークリッド互除法 4. 1次不定方程式 5. 記数法	整数に関する数学史に興味をもち、主体的に学習し、数学のよさを認識する。	【主体的に学習に取り組む態度】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。

成績評価方法

1. 定期考査の成績
 - * 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。
2. 学習態度等の平常点
 - (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度
 - (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。
 - (3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。

以上のすべてを対象に、総合的に判断する。

教科	理科	科目	物理基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	物理基礎(数研出版)
-------	------------

副教材等	新課程リードα物理基礎(数研出版)
------	-------------------

学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い、観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。
------	--

授業の進め方,学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。 提出課題としては、指定問題集の考查範囲の問題を考查ごとに解答し、提出する。授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を動かして取り組んでいかなければならない。
-------------	---

学 習 計 画			
---------	--	--	--

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	運動の表し方	指数の計算法、有効数字について学ぶ。 速度と速度の合成、相対速度について学ぶ。 等速直線運動について学ぶ。 $x-t$ グラフ、 $v-t$ グラフについて学ぶ。 加速度について学ぶ。 等加速度直線運動の3公式について学ぶ。	【知識・技能】 ・物体の速度等が求められる。 ・等加速度直線運動の3公式を使用し、計算できる。 【思考・判断・表現】 ・ $x-t$ 、 $v-t$ グラフから物体の運動が説明できる。 ・式を使用し、物体の運動について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
	落体の運動 力のつりあい	落体の運動が等加速度運動であることを学ぶ。 物体に働く力である、重力・垂直抗力・張力・弾性力の性質について学ぶ。 物理法則である、作用反作用の法則を学ぶ。 静止している物体にはたらく力のつり合いについて学ぶ。	【知識・技能】 ・落体の運動について単純な計算ができる。 ・物体に働く様々な力の作図ができる。 【思考・判断・表現】 ・落体の運動について複雑な計算ができる。 ・力のつり合いの式から力の大きさと向きを求める。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
2 学期	運動の法則 仕事と力学的エネルギー	さまざまな現象について、運動方程式の使い方を学ぶ。 さまざまな力のする仕事について学ぶ。 仕事の原理について学ぶ。 仕事率について学ぶ。 運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギーについて学ぶ。 力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。	【知識・技能】 ・運動方程式を立てることができる。 ・仕事とエネルギーについての式を立てて計算できる。 【思考・判断・表現】 ・摩擦や複数の物体の運動方程式を計算できる。 ・仕事とエネルギーの関係を正確に考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
	熱とエネルギー 波の性質	セルシウス温度と絶対温度について学ぶ。 熱量保存の法則と熱容量、比熱の関係を学ぶ。 熱力学第1法則について学ぶ。 波動現象の基本である等速円運動と単振動を学ぶ。 縦波と横波、正弦波の式、位相について学ぶ。	【知識・技能】 ・温度の意味を理解し、熱量の計算ができる。 ・波動の基本的な物理量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・熱量保存や熱力学第1法則の式を扱える。 ・波動現象の意味を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。
3 学期	平面上を伝わる波 音の伝わり方と発音体の振動 物質と電気抵抗 交流と電磁波	波の重ね合わせの原理、干渉、定常波、波の反射について学ぶ。 波の反射・屈折の法則、波の回折現象について学ぶ。 音の速さ、反射、屈折、干渉について学ぶ。 弦の振動と気柱の振動について学ぶ。 摩擦電気と静電気力について学ぶ。 磁場中の電流にはたらく力について学ぶ。 電磁誘導現象について学ぶ。 交流について学ぶ。	【知識・技能】 ・波動の屈折や反射について理解することができる。 ・弦や気柱の振動について定常波の作図ができる。 ・基本的な電気の現象について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・波動の重ね合わせについて現象を説明できる。 ・開口端補正などについて共鳴現象から計算できる。 ・電磁誘導等について正しく理解し説明ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。

成績評価方法	【知識・技能】授業での取組や定期考查の基本的な出題などにおいて総合的に評価する。 【思考・判断・表現】授業での取組や定期考查の応用的な出題などにおいて総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】授業での取組や授業中に行う特別課題、課題の提出状況などにおいて総合的に評価する。
--------	--

教科	理科	科目	生物基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 啓林館 高等学校 生物基礎

副教材等 第一学習社 新課程版 スクエア最新図説生物 数研出版 五訂版リードα

学習目標

- 1 日常生活や社会との関連を図りながら生物学の基礎となる基本的事象を、最近の知見を取り入れながら学習し、知識を身につける。
- 2 生物や生命現象への興味・関心・意欲を持って学習に取り組み、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につける。
- 3 目的意識をもって観察・実験に取り組み、科学的な自然観を養い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。
- 4 生物現象を学習することにより、自分自身や他者の命の営みを大切に、他の生物に対しても、生命を尊重する精神を養う。

授業の進め方,学習方法

- 1 自作プリントを用いて授業を進め、自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。
- 2 プリントが終わるごとに各自で学習事項のチェックを行い、一時間ごとに基本的知識の定着を図る。
- 3 単元が終わるごとに観察・実験を行い、基本的な実験機器の操作や観察の技能を習得し、レポート提出を通して表現力を身につける。
- 4 定期考査前や長期休業中には、問題演習を課し、課題へ取り組み力を身につける。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	第1章 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上には多様な細胞からなる多様な生物が生息し、その生物たちにも共通性がみられることを理解する。 ・細胞の構造と働きを実験(顕微鏡の扱い方・マイクロメーターの扱い方・タマネギ細胞の観察)を通して学習し、原核生物・真核生物・単細胞生物・多細胞生物の特徴を理解する。 ・代謝には異化と同化があり、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 ・光合成と呼吸の過程を酵素の働きにも触れて理解する。 	<p>【知識・技能】 顕微鏡観察の実験における機器の操作や観察技能の習得で判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 細胞観察の実験レポートの考察内容で評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 細胞の構造と代謝に関する授業や実験に臨む学習の態度や取り組みで評価する。</p>
	第1節 生物の共通性と多様性 第2節 生物とエネルギー		
	第2章 遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> ・メンデルによる遺伝子の存在の仮定から演習を通して遺伝子の働きについて考察する。 ・DNAの二重らせん構造を実験(DNAの抽出)や作業(DNAの模型の作成)を通して理解する。 ・細胞の分裂過程の各段階を実験(ニンニクの体細胞分裂)を通して観察し、それに伴う染色体の変化を学習し、理解する。 ・生体内のタンパク質は酵素などのさまざまな働きをしていることを実験(カタラーゼの働き)を通して理解する。 ・DNAの転写・翻訳の流れを理解し、遺伝子発現について実験(だ腺染色体の観察)を通して、理解する。 	<p>【知識・技能】 DNA抽出、体細胞分裂、酵素反応、だ腺染色体の実験における機器の操作や観察技能の習得で判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 DNA抽出、体細胞分裂、酵素反応、だ腺染色体の実験レポートの考察内容で評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 遺伝子の働き、DNAの構造、タンパク質の働きに関する授業や実験に臨む学習の態度や取り組みで評価する。</p>
	第1節 遺伝現象と遺伝子 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成		
2 学期	第3章 神経系と内分泌系による調節	<ul style="list-style-type: none"> ・実験(血球の観察)を通し、体液の種類と恒常性について理解する。 ・ヘモグロビンによる酸素運搬を中心に、心臓の構造・血液循環の経路についても理解する。 ・神経系やホルモンの働きがどのように血糖量や体温の恒常性に関与しているかを理解する。 ・肝臓や腎臓の働きによって、体液の恒常性が保たれていることを理解する。 	<p>【知識・技能】 血球の観察実験における機器の操作や観察技能の習得で判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 血球の観察実験レポートの考察内容で評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体内の恒常性、神経系、ホルモン・各臓器の働きに関する授業や実験に臨む学習の態度や取り組みで評価する。</p>
	第1節 情報の伝達 第2節 体内環境の維持のしくみ		
	第4章 免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を知り、自然免疫と獲得免疫のしくみを理解する。 ・予防接種や血清療法、アレルギーやエイズなど身近な免疫に関与する現象を理解する。 	<p>【知識・技能】 免疫の基本知識の習得や身近な活用例の考察、植物と光の関係、植生遷移の内容理解で判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 免疫の様々なモデルや反応のメカニズムを論理的に考え、データから情報をよみとる、植物と光の関係を示すグラフを正しく読み取り、考察する内容で判断する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 免疫の活用例について、近年の研究発展の背景を知り、実生活への活用の議論の内容で判断する。</p>
第1節 免疫の働き			
3 学期	第5章 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の生活形や植物と光の関係について、学習し考察する。 ・光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解し、陽生植物・陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・乾性遷移のモデルについて、土壌の構造を理解し、土壌の形成や光環境の変化などとともに注目して理解する。 	<p>【知識・技能】 食物連鎖、生物の関係性について基本知識の習得や人間活動が地球に及ぼす影響の内容理解で判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 生物の関係性、人間が地球に及ぼす影響について、多角的な視点をもち、総合的な考察内容で判断する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生物の関係性、人間が地球に及ぼす影響について、積極的な議論や考察を行い、その内容で判断する。</p>
	第1節 植生と遷移		
	第6章 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> ・生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 ・生態系内における炭素と窒素の循環を理解する。 ・生態ピラミッドや物質の生産と消費の関係を理解する。 ・生態系のバランスと変動について理解し、これに関与する現象や生物について理解する。 ・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。 ・『酸性雨』『地球温暖化』『富栄養化と生物濃縮』『外来生物の移入と絶滅危惧種』などの生じるしくみを調べ、人間活動との関係や生態系に与える影響について理解する。 	

成績評価方法

【知識・技能】
授業への取り組み、観察・実験に対する態度で総合的に判断する。

【思考・判断・表現】
発展的内容、グラフ・図表の読み取り、授業中の議論内容で総合的に判断する。

【主体的に学習に取り組む態度】
授業への取り組み、探究的活動や議論への参加姿勢で総合的に判断する。

教科	理科	科目	化学基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
----	----	----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 化学基礎（東京書籍）

副教材等 サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍)

学習目標
 1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質やその変化に注目し理解する。
 2 科学的に探求するために必要となる観察や実験に関して基本的な知識や技能を身につける。
 3 観察や実験を通して、科学的に探求しようとする力を養う。
 4 化学の原理や法則を理解することで、科学的な考え方を養う。

授業の進め方,学習方法
 1 自作プリントを用いることにより発展的な内容も取り入れながら授業を行い、系統的に理解を深めていく。
 2 小テストを取り入れることにより、知識の定着を図る。
 3 集団での議論を取り入れるなど、授業への能動的な参加を促す。
 4 定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組みませ、定期考査後や長期休業中には復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分 2節 物質の構成元素 3節 物質の三態	・身の回りの製品を構成する物質とその用途 ・純物質と混合物 ・混合物の分離法 ・元素とその確認 ・単体と化合物 ・粒子の熱運動と状態変化 ・粒子の熱運動	【知識・技能】 純物質と混合物では性質が異なり、分離する方法があることや物質には三態が存在し、粒子の状態が異なることなどの理解で評価する。 【思考・判断・表現】 身の回りの化学物質がどのような目的で利用されているのかや、どのような反応を利用すれば元素の確認ができるかなどの判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や課題に対する取り組みで評価する。
	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造 2節 電子配置 3節 元素の周期表 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	・原子の構造 ・同位体とその利用 ・原子の電子配置 ・周期表 ・イオンの生成 ・イオンの分類 ・イオン半径 ・イオン結合とイオン結晶	【知識・技能】 原子の構造およびその構成粒子の性質や、イオンの性質と成り立ちおよびイオン結合についての理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 周期表で表すことにより、族と周期についてどのようなことが考えられるかなどの判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や小テストに対する取り組みで評価する。
2 学期	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合	・共有結合の成り立ち ・共有結合と分子の形成、およびその形 ・配位結合 ・電気陰性度と分子の極性 ・分子結晶 ・共有結合の結晶 ・金属結合と金属結晶	【知識・技能】 共有結合の形成から分子の成り立ちと構造式や、自由電子の性質と金属の特徴などの理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 電気陰性度の差による結合の極性と分子の形状により分子の極性を判断できるかななどで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 身の周りの高分子化合物や合金について知ろうとする態度などで評価する。
	4節 化学結合と物質の分類 3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質量	・化学結合と物質の分類 ・原子の相対質量 ・原子量 ・分子量 ・式量 ・アボガド数と物質量 ・1 molの気体の体積	【知識・技能】 原子量・分子量・式量の値が示すものや、物質量と気体の体積など、物質量を中心とした量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 元素の種類から結合を判断し、結合の種類と物質の性質の関連を考察できるかななどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や課題・小テストに対する取り組みで評価する。
3 学期	3節 溶液の濃度 4節 化学反応式の表し方 5節 化学反応式の表す量的関係	・溶液の濃度 ・化学反応式 ・イオン反応式 ・化学反応の表す量的関係 ・反応物の過不足 ・化学の基本法則	【知識・技能】 濃度の計算、化学反応式やイオン反応式の作り方、化学反応式を用いた量的関係の理解などで判断する。 【思考・判断・表現】 化学の基本法則の問題点に対しどのように考え、新たな法則に達するかなどについて考察できるかななどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 食酢など身の回りの物質の濃度の変換の取り組みなどで評価する。

成績評価方法
 【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
 【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
 【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。

教科	保健体育	科目	体育	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
----	------	----	----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	なし
副教材等	なし

学習目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。</p> <p>②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
授業の進め方・学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	I ソフトボール（男） ハンドボール（女） バドミントン（男女） 卓球（男女） 柔道（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ●柔道 武道の歴史・礼法・受け身(各種)・体さばき「技」(固め・投げ・寝技)・打ち込み・かかり練習 乱取・試合 など ●ダンス 基本的な運動要素(走る・伸びる・縮む・ジャンプ・ターン・転がる)・リズムダンス・イメージダンス(即興) 創作ダンス・発表会の企画、運営 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目それぞれの特徴を理解し、言語技術を活用して説明することができるか。 ・競技方法やルールについて理解しているか。 ・技能を実践の場において総合的に発揮することができるか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。 ・実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているか。
	II 水泳（男女） 器械運動（男女） 陸上競技（男女） ダンス（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術) など ●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス) など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム など 	
III ソフトボール（女） ハンドボール（男） バスケットボール(女) バレーボール（男） テニス（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ●水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ クイックターン・メドレー など ●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム)サービス(ロング・ショート)・フライト(ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど)・簡易ゲーム・ゲーム など 		
IV サッカー（男） ラグビー（女） バスケットボール(男) バレーボール（女） テニス（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1、4対1、5対5のミニゲーム、ゲーム など ●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など ●陸上競技 ハードル走(50m) ハードリング・インターバル・50m・記録測定 など ●ラグビー(タグラグビー) 各種パス、1対1、2対1、サインプレー、ミニゲームなど 		
3学期	V サッカー（女） ラグビー（男） バドミントン（男女） 卓球（男女） 柔道（男女）		

成績評価方法	<p>【知識・技能】</p> <p>能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができるか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。</p> <p>上記の観点より、学習活動、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)、出欠席状況を総合的に評価します。</p>
--------	---

教科	保健体育	科目	保健	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
----	------	----	----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	現代高等学校保健体育(大修館)
副教材等	なし

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
授業の進め方、学習方法	教科書や、パワーポイントを使用して、それぞれの単元の内容を講義していく。授業時のレポートやノートの提出がある。単元の内容に関連した時事問題を教材として扱うこともある。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	・私たちが生きている現代社会の健康水準や健康について学ぶ。さらに個人の行動と社会の活動が私たちの健康にどのようなかわっているかについても学ぶ。 ・健康を保持増進し、がんや生活習慣病を予防していくには、食事・運動・休養・喫煙・飲酒といった生活習慣を適切なものにしていく必要があることや薬物乱用と健康についても学ぶ。	【知識・技能】 それぞれの単元において、健康を保持増進するには、適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、個人生活及び社会生活の健康や安全について課題解決に役立つ知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 それぞれの単元において健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料や仲間の意見や考え方を参考にしたりして、課題の設定や解決方法を考え判断できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 それぞれの単元において健康の保持増進に必要な事柄について、関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。
2学期	現代社会と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	・薬物の乱用が心身の健康や社会におよぼす影響について理解する。 ・うつ病や統合失調症などの精神疾患の特性や原因、また予防、回復について学ぶ。 ・コロナ、結核、腸管出血性大腸菌感染症やエイズ他、性感染症など、近年、感染症の新たな問題が起こっていること、およびその予防には社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを理解する。感染症とその予防といった問題についても学ぶ。 ・意志決定・行動選択の重要性や影響する要因、必要なことを理解する。	
3学期	安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	・わが国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境を作るためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身に付け、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。	

成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期考査、授業の観察など</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査、レポートやノート提出など</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 発表など</p> <p>上記より、平常の学習活動全般から得られる資料に基づき、教科「保健」の目標及び内容に沿って多面的・総合的に行う。</p>
--------	--

教科	芸術	科目	音楽 I	学年・類型	1年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	教育芸術社 MOUSA 1
-------	---------------

副教材等	なし
------	----

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成する。 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
------	---

授業の進め方、学習方法	表現領域では、さまざまな実技課題が出されます。個々のレベルに合わせて習熟できるよう時間を設定しています。 鑑賞領域では、学習プリントのや確認テストによって、学習内容の理解の深化を図ります。
-------------	---

学 習 計 画			
---------	--	--	--

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	楽譜の読み方・書き方	楽譜の正しい読み方・書き方を身につけ、表現に生かすようにする。	【知識・技能】 音楽に関する用語や記号などについて音楽における働きと関わらせて理解している。
	ソルフェージュ力を高める	ボディー・パーカッションや楽器を用いたリズム・アンサンブルをする。	【思考・判断・表現】 自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。
	歌の楽しみ	曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるようにする。	【知識・技能】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を理解している。
	音楽の諸要素の聴取 声を用いた表現の楽しみ 1学期のまとめ	作曲者について学び、楽曲を鑑賞した後、プレゼンテーションをする。 曲種に応じたさまざまな発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。 確認テスト	【思考・判断・表現】 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
2 学期	創作表現 (ギター弾き語り) ギターの楽しみ ピアノ曲の鑑賞 バロック・古典派の音楽の鑑賞	コード進行をもとにメロディーを作って、ギターの弾き語りをする。 ギターの正しい奏法を身につけ、TAB譜やコード表を見ながらメロディーまたは伴奏パートを演奏する。 鍵盤楽器の歴史について学び、楽曲を鑑賞する。 J.S.Bach,W.A.Mozartについて学び、楽曲を鑑賞する。	【知識・技能】 曲にふさわしい奏法および創作に必要な旋律を作ったり、和音付けをする技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、自己のイメージをもって器楽表現を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
	和楽器(三線)の弾き歌い	調絃や勘所の押さえ方など、三線の正しい奏法を身につけ、曲を演奏する。	【知識・技能】 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。
	日本の伝統音楽の鑑賞 主題と構成の聴取 2学期のまとめ	様々な日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞する。 主題の展開や構成を理解しながら、ソナタ形式などの楽曲を鑑賞する。 確認テスト	【思考・判断・表現】 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	創作表現 (ヴォイス・アンサンブル) 世界の諸民族の音楽	オノマトペでリズム・アンサンブルをつくり、発表する。 世界の諸民族の音楽について学び、音楽を鑑賞する。	【知識・技能】 反復・変化・対照などの手法を活用して音楽を作る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 創作表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。
3 学期	ポピュラー音楽	Jazzなどポピュラー音楽の変遷について学び、楽曲を鑑賞する。	【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
	1年間のまとめ	確認テスト	

成績評価方法	【知識・技能】 実技における課題進捗状況(過去の音楽経験の有無に大きく左右されないよう、授業における学習到達度によって評価します) 確認テスト 【思考・判断・表現】 学習プリントの記入状況、創作作品 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度、学習の取り組み状況(観察・聴取)
--------	---

教科	芸術	科目	美術 I	学年・類型	1年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	光村図書 美術1
-------	----------

副教材等	なし
------	----

学習目標	美術の幅広い創造活動な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
------	--

授業の進め方,学習方法	A表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現 作品制作を通じ、材料・用具の特性への理解を深め、創意工夫し感性豊かに表現する。 B鑑賞 課題や作品毎の鑑賞やワークシート作成を通して、美術への関心・意欲を促すとともに、鑑賞の能力を培い、作品への理解を深める。
-------------	--

学習計画			
------	--	--	--

学期	単元	学習内容	評価規準
1学期	オリエンテーション 日本の伝統工芸「折り紙」 デザイン 「ゼンタングルを用いて 学校案内の表紙絵を デザインする」	学習の意義、内容、心構え 鶴と烏をそれぞれ白と黒の紙で折って表現する。 太さの異なる黒色のペンだけでゼンタングルという技法を使い 校章や校舎などを取り入れ、自由にデザインし描く。色鉛筆で着色してもよい。 最優秀作品は学校案内のパンフレットの表紙絵を飾る。	【知識・技能】 紙の特性を理解して丁寧に折る。 条件の通り、図柄や模様を正確に模写する。 【思考・判断・表現】 折り図を見ながら、完成イメージを想像して表現する。 絵や文字が引き立つようにバランスよく効果的に表現する。 ゼンタングルのよさを見つけ、自分なりにアレンジを加えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の文化のよさを味わっている。資料や情報を集めている。 道具を使い分け、様々な描き方を工夫し丁寧に描いている。
	彫刻 粘土による塑像 「テーマに沿って 鉛筆キャップを作る」 鑑賞 「キネティックアート」	想像上の生物を石粉粘土で立体的に作り、 鉛筆キャップとして使えるようにする。作業工程を考え計画書に記入する。 ワークシートやアイデアスケッチを参考にしながら、鉛筆のサイズに合うように 粘土で形や質感を塑像し、アクリルガッシュで着色しニス塗り制作する。 作品の解説書と感想を記入、作品を展示鑑賞し批評する。 DVD「テオ・ヤンセン ストランドピースト」とミニ模型を観て、ワークシートに記入。	【知識・技能】 参考作品や生徒作品をみて、課題内容を把握し、その多様性を理解する。 【思考・判断・表現】 制作手順や道具を工夫し、形色にこだわり、独創的な生物を表現している。素材の特性をうまく生かして制作している。 【主体的に学習に取り組む態度】 既存の想像上の生物について調査し、魅力を感じようとしている。 必要な道具、材料を準備している。 作品と制作工程、作家の考えなどから魅力や世界観を感じ取り、言葉にする。
2学期	夏休みの課題 「アート作品にふれる」 絵画 「モダンテクニックから 見えてきた心の風景を描く」	夏休みの期間、美術館やギャラリーへ行き、アート作品を鑑賞し、 展示場所・作品の内容・感想などをワークシートを記入し提出する。 国内外で活躍した作家の作品を鑑賞し、作家や歴史的背景、抽象と具象絵画の 表現について学ぶ。過去の生徒作品も鑑賞する。アクリルガッシュ絵具と ビニール袋などを使って、デカルコマニーなどのモダンテクニックの技法を用いて、 自由に描く。その後、作品をじっくり観察し、見えてきた心の風景を画面に描く。	【知識・技能】 作品のよさを感じたり、展示場所との関連性や必然性を考える など、作者の表現の意図を読み取っている。 絵具の特性を理解し、形や色、筆の動きや強さの与える印象について知る。 【思考・判断・表現】 自らのドローイングから発想した印象や感情を、形や色、構図などの 効果を考え、構想を練り表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 美術に対する考え方に興味をもち、情報や資料を集めようとしている。
	デザイン 「お菓子のパッケージを デザインする」	実際に市販されているお菓子のパッケージデザインから、人に伝えるための 図柄や色、言葉やフォントの工夫について、調査、分析する。 調査、分析をもとにコンセプトとターゲットを設定し、デザインをする。 展開図をアートポスト紙に製図し、デザインを考えアクリルガッシュ絵具で着色し 組み立てて完成させる。制作過程で工夫したところを伝え合い、 他の生徒の作品を鑑賞し、他者の作品の思いや表現の工夫を感じ取る。	【知識・技能】 生活や社会を豊かにするデザインの働きについて知り、目的や意図 に応じて視覚的な表現方法を工夫している。 【思考・判断・表現】 紙のパッケージの構造を理解し、既存のデザインをもとに創造的な 構想を練っている。またコンセプトとターゲットに合った表現である。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近なパッケージデザインに関心をもっている。 資料を集め、情報を整理し、表現に役立たせている。
3学期	素描 「身近な道具」 練習課題「切り絵」 デザイン(工芸) 「道具をテーマに エコバッグの型染をする」	冬休み期間中、身近な道具を観察しながら、モチーフの形状や特徴を 捉えながら鉛筆で正確に5パターン以上描く 型紙制作をする前に、切り絵を使いデザインナイフの練習をする。 日本の伝統工芸(染織)作品と身近に使用している染織作品を鑑賞する。 スケッチをもとに構想したデザインを型紙に転写する。デザインナイフでデザイン した型紙を切り抜き、型を完成させる。バッグに型を自由に配置し、染料とプランで 染める。金と銀色は、専用フィルムとバンダー液をアイロンで 貼り合わせる。完成後、タイトルと感想を記入する。	【知識・技能】 日本の伝統的な表現の特質や様式を考え、色に対する理解を深める。 試作品から染料と顔料の違いを知り、型染のおもしろさやみつけデザインを考える。 【思考・判断・表現】 モチーフの形、質感、明暗など細部まで表現している。素材や用途、 美しさの調和を考え、染色技法を工夫して表現制作している。 造形用途としてテクスチャーの重要性について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 身の回りの道具に興味をもち、デザインや機能美をみつける。 デザインの表現活動に計画的に取り組んでいる。

成績評価方法	【知識・技能】 造形の要素や特徴、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。意図に応じて材料や用具を準備し、特性を生かして活用する。 表現方法を創意工夫し、主題を追究して創造的に表現している。 【思考・判断・表現】 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や創造などから主題を生成している。 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
--------	--

教科	芸術	科目	書道 I	学年・類型	1年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	東京書籍
副教材等	

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科書写との接続を図り、書道の基礎となる書写能力を高める。 ・書道の幅広い活動を通して、書に興味・関心を持ち、感性を豊かにし、生涯にわたって書を愛好する心情を育てる。 ・書表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
授業の進め方,学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作成、レポートの提出

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	一 はじめに 1書写から書道へ 2姿勢と執筆法 3用具・用材 4書の表現方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく整え読みやすく書く書写能力の基礎・基本を学習する ・「国語科書写」と「芸術科書道」との関連を学習する ・文字を書くときの姿勢や筆の持ち方を理解し、運筆法を学習する ・筆・墨・硯・紙などの用具・用材の特性を学習する ・用筆・運筆による表現の違いや構成方法を理解し、学習する ・日本語の成り立ち 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
	二 漢字の書 1書体の移り変わり 2楷書の古典を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・中国(唐時代)の作品を臨書・鑑賞し、様々な書表現と技法を学習する 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
	暑中見舞い	<ul style="list-style-type: none"> ・はがきの使い方や知識などを学ぶ 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
2学期	3行書の古典を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・古典作品を臨書・鑑賞し、書表現と技法を学習する 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
	4草書の古典を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・草書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・古典作品を臨書・鑑賞し、書表現と技法を学習する 	
	5隷書の古典を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・隷書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・古典作品を臨書・鑑賞し、書表現と技法を学習する 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
	6篆書の古典を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・古典作品を臨書・鑑賞し、書表現と技法を学習する 	
	三 仮名の書 1仮名の成立 2仮名の基本を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひらがな」48文字の成立過程を学習する ・仮名の基本線を理解し、「ひらがな」48文字を学習する 	
年賀状(寒中見舞い)	<ul style="list-style-type: none"> ・はがきの使い方や知識などを学ぶ 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート	
3学期	四 漢字仮名交じりの書 1漢字仮名交じりの書の表現	<ul style="list-style-type: none"> ・素材となる詩文の内容を理解し、表現方法を学習する ・創作過程を理解し、イメージに合った書体・字形を工夫し作品制作、学習する 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
	五 暮らしの中の書 1創作	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた形式、好きな言葉を書くときなど、楽しみながら創作を体験する 	
	篆刻	<ul style="list-style-type: none"> ・落款印の作成 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート

成績評価方法	【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 以下内容で上記内容を総合的に判断 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・感想レポート
--------	---

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションI	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
----	-----	----	--------------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 HearteningI English Communication (桐原書店)

副教材等 必携英単語LEAP(数研出版) English Central Heartening I 4技能Naviブック(桐原書店)

学習目標 英語の知識や技能を使いながら、5領域において情報や考えを的確に把握し表現する力を養う。
外国語でのコミュニケーションを図るための知識・技能の習得や学習全般のあり方を主体的に考え、工夫する力を養う。

授業の進め方,学習方法 2単位:ホームルーム単位での一斉授業。教科書の教材をベースに概要把握や意見交換等を行う。ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫し、生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成する。問題演習により、理解や学習内容の定着をはかる。副教材を自学教材として活用し、音読や関連動画の視聴を促し、リスニング力やスピーキング力等の向上を図る。
1単位:1クラスを2グループに分けた少人数展開。プレゼンテーションやインタビュー等を通じリスニング力とスピーキング力の向上を図る。

学習計画

学期	単元	学習内容	評価規準
1学期	Lesson1 Bringin Out the Best in Himself	NBA選手になる夢を実現した八村選手	現在形・過去形・進行形・未来表現について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 八村選手の成長の軌跡を理解できる。
	Lesson2 Hold On, Anzu	警察犬として活躍しているトイプードル	現在完了形・現在完了進行形・過去完了形・過去完了進行形について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 捨てられた小犬をめぐる問題、努力の大切さ等を理解できる。
	Lesson3 We can Make a Difference	気候変動と改善のための行動	助動詞・助動詞の過去形について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 地球規模の問題について実態を理解し、解決策について考えることができる。
	Lesson4 Creative Problem Solving	ポイ捨てをする心理と効果的な抑止法	受動態と前置詞について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 人間の心理や行動の特徴について学び、創造的な解決法について考えることができる。
2学期	Lesson5 Canned Bread to Feed the World	「救缶島プロジェクト」の目的と意義	不定詞・知覚動詞・使役動詞について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 食料廃棄問題や飢餓地域について学び、その解決策を考えることができる。
	Lesson6 Could We Have a real Jurassic Park?	進化の歴史と恐竜再生の可能性	動名詞・分詞を用いた第2文型について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 進化の歴史やDNAについて学び、恐竜再生の可能性についての意見を述べられる。
	Lesson7 Behind the Price Tag	安価な衣類製造プロセスにおける労働者の実態	分詞を用いた第5文型や構文について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 世界規模の労働問題や人権問題について学び、持続可能な社会の在り方について考え、意見を述べることができる。
3学期	Lesson8 The World's Winter Festivals	世界各地の冬の祭り	比較表現や継続接続詞について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 世界の文化や歴史について学び、人類に共通する思いについて考えを述べられる。
	Lesson9 Talking Trees	繁栄する森	関係代名詞・関係副詞・関係代名詞非制限用法について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 植物がとっているコミュニケーションについて学び、感想や意見を述べることができる。
	Lesson10 Capturing the Reality of the World	フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの生き方	仮定法過去・仮定法過去完了など仮定法を使った表現について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 取材したメモや情報を基に、その人物について相手にわかりやすく紹介することができる。

成績評価方法 上記の評価規準を基に定期考査やパフォーマンステストにおいて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する。
自学教材の取り組みや授業における達成度、言語活動の取り組み等を基に「主体的に学ぶ態度」を評価する。
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ態度」について総合的に評価する。

教科	外国語	科目	論理・表現 I	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	-----	----	---------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 Vision Quest Advanced English Logic and Expression I (啓林館)

副教材等 Vision Quest Advanced WORKBOOK (啓林館) 総合英語Ultimate (啓林館) ライティングメソッドSLC (啓林館)

学習目標 コミュニケーションのさまざまな場面において、英語の知識や技能を適切に用いて、その場面で求められるコミュニケーションを図る力を養う。パラグラフライティングを通し、論理の構成や展開を工夫して正しく自分の思いを伝える力を養う。

授業の進め方,学習方法 問題演習を通し基本的な知識の習得を目指すとともに、さまざまなトピックについて自分の考えをまとめたり、他者の意見を聞いて概要をまとめたりする。自分の意見を論理的に伝えるパラグラフを書く。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	Lesson1 I want to introduce my new friend.	初対面で行われる自然な会話や学校の習慣の紹介	疑問文、命令文、感嘆文、単文、重文、複文について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 学校の規則や好きな科目について書いて伝えられる。
	Lesson2 How about joining our group?	学校生活で行われる生徒同士のやり取り表現	文型と動詞について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 日常生活や自分の予定について書いて説明できる。
	Lesson3 I'm planning a day trip this weekend.	旅行の計画や予定を伝える表現	基本時制の構造と概念を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 週末や来月の予定について伝えられる。
	Lesson4 Have you ever tried it before?	趣味や関心についての表現	完了形の概念を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 訪れたことがある場所や経験について伝えられる。
	Lesson5 What do you want to do after school?	将来や進路に関する考えや気持ちを伝える表現	助動詞の意味を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 将来の夢について伝えられる。
2 学期	Lesson6 Did you hear about the new shop?	日常生活での感情や物事を表す表現	受動態の構造や意味を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 自分の日常生活で起きた出来事について伝えられる。
	Lesson7 I'm happy to have you with us.	さまざまな感情表現	様々な不定詞の用法を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 感謝、謝罪、弁解等、日常生活で使う感情表現を用いて、自分の生活について相手に伝えられる。
	Lesson8 What sport do you like playing?	スポーツについての会話表現	動名詞のさまざまな用法を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 スポーツや自分の好きなことについて相手に伝えられる。
	Lesson9 Digital media has come a long way.	メディアを利用したコミュニケーション	分詞の用法を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 人や物事について情報を加えて詳しく説明できる。
Lesson10 That's why I decided to go back.	日本文化や異文化についての紹介	関係詞の用法を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 日本文化について伝えられる	
3 学期	Lesson11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones?	国際問題についての会話表現	比較に関する用法と表現を理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 世界の諸問題について意見を述べられる。
	Lesson12 If I were you, I'd see it as a positive.	日本の社会問題について	仮定法について理解し、その知識を用いてコミュニケーションを図ることができる。 日本の社会問題について自分の意見を伝えられる。

成績評価方法 上記の評価規準を基に、定期考査やライティング課題を通して「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について評価する。自学教材の取り組みや授業内の言語活動への取り組み、達成度等を基に「主体的に学ぶ態度」について評価する。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ態度」を総合的に評価する。

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)
副教材等	生活ハンドブック(第一学習社)

学習目標	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
授業の進め方・学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・体験学習を行いやすいように2時間連続の形態で授業を行い、考察・記録・感想・今後の課題をまとめ、さまざまな視点から考えられる力を養う。 ・ワークシートの最後に学習事項の確認、単元終了時の確認プリント、調理実習や基礎的な実技の確認により知識・技能を習得し生活の質の向上を目指す。 ・自作のプリントを用いて授業を進め、持続可能な社会を実現するためにできることを考察し表現する力を身につける。 ・夏期休暇には、ホームプロジェクトに取り組み、自己の生活の課題を見つけ解決を目指して計画を立て、実施、検証を行い、課題解決力を身につける。

学 習 計 画

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	【1】これからの生き方と家族	①生涯の生活設計 ・生涯発達する自分 ・青年期を生きる ・キャリアの形成 ・ワーク・ライフ・バランスを求めて ②家族・家庭と社会のかかわり ・家族・家庭・世帯 ・家族・家庭の働き ・パートナーと出会う ・結婚と変化する家族 ・家族に関する法律	【知識・技能】 人生の各ライフステージの特徴と課題や社会状況を習得する。 【思考・判断・表現】 自分や、人の一生についての考えを表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の自分のこと、将来の生活設計に積極的に取り組む。
	【2】食生活をつくる	①人の一生と食事 ・私たちと食事 ・健康に配慮した食生活 ・食生活の変化 ・持続可能な食生活 ②食生活の安全 ・食中毒の種類と予防法	【知識・技能】 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を習得する。 ・食中毒の予防法や、食品添加物についての知識を習得する。 【思考・判断・表現】 食中毒予防、食料問題、現在の日本の食生活における課題解決の方法について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 食中毒予防の方法、食料問題について臨む学習に積極的に取り組む。
2 学期	【夏期課題】ホームプロジェクト	食生活についての課題に取り組み、現状について調べ、各自が家庭でできることを考えて実践する。	【知識・技能】 食生活の問題について現状について記述する。 【思考・判断・表現】 調べた現状を客観的に判断し、それをもとに家庭で解決につながることを計画、実践、成果の自己評価し、それをもとに今後も続けて行ける課題を論理的に指摘する。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出されたレポート、発表し、その後のディスカッションに積極的に臨む。
	【2】食生活をつくる	③栄養と食品 ・人体と栄養 ・炭水化物 ・脂質 ・たんぱく質 ・無機質 ・ビタミン ・嗜好食品と健康増進のための食品 ・食品の選択と保存	【知識・技能】 栄養・食品・調理に関する基礎的な知識、日常の食事づくりに必要な調理技術を習得する。 【思考・判断・表現】 ・食品選択、栄養計算や献立作成をする。 ・調理実習において、衛生面や効率を考えて作業を計画立案する。 【主体的に学習に取り組む態度】 栄養・食品・調理実習に積極的に臨む。
	【3】衣生活をつくる	①人の一生と被服 ・私たちの衣生活 ・被服の機能 ・被服の選び方 ②被服材料と管理 ・被服の素材 ・洗濯方法、しくみと表示 ・被服の手入れと保管 ③これからの衣生活 ・衣文化の継承と創造 ・持続可能な衣生活	【知識・技能】 ・衣服材料の性能と特徴の知識、計画的な衣生活を営む知識を習得する。 ・基礎縫いなどの縫製技術を習得する。 【思考・判断・表現】 エシカルな衣生活について実践的な行動を表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 基礎縫いの確認のための実習や、学習の取り組みに積極的に臨む。
	【4】次世代をはぐくむ	①子どもの発達 ・次世代をはぐくむ ・命のはじまり ・乳幼児の心と体の発達 ②子どもの生活 ・親と子のかかわり ・乳幼児の生活と安全 ・子どもの成長と遊び ③子育て支援と福祉 ・地域社会と子育て支援 ・未来を担う子どもの権利	【知識・技能】 子どもの心身の発達や生活についての知識、子どもとの接し方についての知識を習得する。 【思考・判断・表現】 子どもとふれあう体験学習での課題や社会で子育てをする意義や現在の子育ての環境について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの世界や生命の尊さ、子どもをとりまく状況についての学習に積極的に臨む。 ・子どもとふれあう体験学習や、子どものおもちゃづくりに関する学習に積極的に取り組む。
	【5】充実した生涯へ	・超高齢社会を生きる ・人生の中で高齢期をとらえる ・高齢期の生活 ・加齢社会を支える ・充実した高齢期へ	【知識・技能】 ・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴、高齢者と接し方を習得する。 ・社会保障制度の仕組みを習得する。 【思考・判断・表現】 高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立を支援することについて考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 福祉や介護について学習に積極的に臨む。
【6】ともに生きる	・社会保障制度と社会的連帯 ・人の多様性と社会参加		

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書 高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)

副教材等 生活ハンドブック(第一学習社)

学習目標
 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
 ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
 ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

授業の進め方・学習方法
 ・実習・体験学習を行いやすいように2時間連続の形態で授業を行い、考察・記録・感想・今後の課題をまとめ、さまざまな視点から考えられる力を養う。
 ・ワークシートの最後に学習事項の確認、単元終了時の確認プリント、調理実習や基礎的な実技の確認により知識・技能を習得し生活の質の向上を目指す。
 ・自作のプリントを用いて授業を進め、持続可能な社会を実現するためにできることを考察し表現する力を身につける。
 ・夏期休暇には、ホームプロジェクトに取り組み、自己の生活の課題を見つけ解決を目指して計画を立て、実施、検証を行い、課題解決力を身につける。

学習計画

学期	単元	学習内容	評価規準
3学期	【7】住生活をつくる	①人の一生と住まい ・私たちと住まい ・平面図の活用 ・長く住み続けるために ・生涯を見通した住まいの工夫 ②住生活の計画と選択 ・快適で健康な住まい ・安全で安心な住まい ・持続可能な住まい ・住まいと地域社会のかかわり	【知識・技能】 地域の特性を生かした住まいの役割、日本独特の住まいの特徴、住まいの機能・役割、健康的な住まい、住まいの安全対策などに関する知識を習得する。 【思考・判断・表現】 ・現代のライフスタイルやライフステージに応じた住空間の設計の関係や住環境について間取り図を作成し、考察する。 ・安全な住まいづくりや、快適な住環境のために、周りの環境とも関係していることを考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 住まいの機能、住空間の計画や住環境について積極的に学習に臨む。
	【8】経済生活をつくる 【10】経済的に自立する	①私たちの暮らしと経済 ・人生とお金 ・収入と支出のバランス ・将来の経済生活を考える ②消費者問題を考える ・契約とは ・消費者問題はなぜ起こるのか ・多様化する支払方法とリスク防止 ・消費者の自立と行政の支援 ③持続可能な社会をめざして ・消費生活と持続可能な社会 ・消費者市民社会をめざして	【知識・技能】 契約、消費者の権利と責任、現代の消費生活の課題、家庭生活と資源・環境との関係についての知識を習得する。 【思考・判断・表現】 ・消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を表現する。 ・環境に関する現状から、生活におけるより良い消費行動について表現する。 ・生活設計と将来の働き方や生き方についての考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に学習に臨む。

成績評価方法
 【知識・技能】
 定期考査での知識の習得、実習操作、実技テストでの技能の習得、実習での判断する。
 【思考・判断・表現】
 実習・体験学習などのレポート、定期考査でのグラフや表などの資料の読み取りや応用的な内容、授業中の議論内容、ワークシートの考察から判断する。
 ホームプロジェクト
 【主体的に学習に取り組む態度】
 出席状況や、授業・実習・体験学習などに取り組む姿勢で判断する。

教科	理数	科目	理数探究基礎	学年・類型	1年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
使用教科書	数研出版「理数探究基礎」								
副教材等	なし								
学習目標	2学年で取り組む探究活動にむけて、理科・数学・情報分野から7つのテーマを設定し、3時間ごとの講義および実習をおこなう。								
授業の進め方,学習方法	2学年で取り組む探究活動にむけて、理科・数学・情報分野から7つのテーマを設定し、3時間ごとの講義および実習をおこなう。それぞれのテーマがミニ探究活動となっており、実践を通じて探究活動の要諦をつかむ。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	I. テーマの設定 仮説を立てる	①ブレインストーミングの取り組み方 ・ブレインストーミングの手法と環境について ・マインドマップをもちいた課題設定と解決方法の模索 ・成果発表	別添のルーブリックによる
	II. 実験・観察・調査に関する 基本操作	②密度の測定 ・単位とは何か、接頭語と指数表示 ・誤差と有効数字、誤差を減らす測定方法の考察 ・各種実験器具の使用法、金属・木材の密度測定 ③温度の測定	
	III. 野外調査	④六甲山系の樹木における炭素固定量の測定 ・六甲山系の樹木と炭素固定量について ・三角測量をもちいた樹木の測定・樹木の種類の同定 ・炭素固定量を求める	
2学期	IV. 統計学	⑤データの代表値・分散と標準偏差 ・データの整理(度数分布・ヒストグラム) ・データの代表値(平均値・中央値・最頻値) ・分散と標準偏差・データの相関 ⑥「データ整理」実習 ・データから必要なものを取り出す ・PCをもちいたデータ処理	
	3学期	V. 成果を発表する	

成績評価方法	各テーマにおける取り組み状況、およびパフォーマンス課題を別添のルーブリックに照らし、観点別に評価をおこなう。通知表による評価のフィードバックは学年末におこなう。
--------	--

理数探究基礎ルーブリック

	A	B	C
知識・技能	講座で取り組んだ知識や技能が、十分に身についた	講座で取り組んだ知識や技能が、十分ではないが身についた	講座で取り組んだ知識や技能が、身についたとは言えない
思考・判断・表現	講座で取り組んだ内容を用いて、適切に思考・判断・表現できる	講座で取り組んだ内容を用いて、十分ではないが一定程度、思考・判断・表現できる	講座で取り組んだ内容を用いて、思考・判断・表現できるとは言えない
主体性	講座で実施された内容に、主体性をもって取り組んでいた	講座で実施された内容に、十分ではないものの意思をもって取り組んでいた	講座で実施された内容への取り組みの際、意識が感じられなかった

教科	理数	科目	理数探究基礎(探究入門)	学年・類型	1年特色類型	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
----	----	----	--------------	-------	--------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版「理数探究基礎」
副教材等	なし

学習目標	探究活動を行うにあたって、適切な課題や問いをみつける力を養い、その研究をすすめる様々な手段を学び、成果を世界に向けて発信する力を身につける。最終的には、2年次より行う探究活動のために適切な課題設定を行う。
授業の進め方,学習方法	目的に応じた外部講師の講義を受け、そのフィードバック授業を受ける。講義の後には内容のまとめとそれぞれの講義に応じた課題を行い、身につけるべき力を自覚することで、探究活動の要諦をつかむ。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	序論 探究を始める前に		【知識・技能】 授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、知識・技能に関するものにより評価を行う。 【思考・判断・表現】 授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、思考・表現・判断に関するものにより評価を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題のうち、主体的に学習に取り組む態度に関するものにより評価を行う。
	第1章 科学とは	・世界的な科学者のメッセージ動画に学ぶ	
	第2章 探究するうえでの心構え	・外部講師「探究と科学倫理について」 ・外部講師「心理や文化が実験に与える影響について」 ・外部講師「ラヴォワジエと新しい化学」	
	第1編 探究の流れ		
	第1章 テーマの設定	・レポートの書き方レクチャー	
	第2章 仮説を立てる	・探究テーマについて考える	
2 学期	第3章 計画を立てる	ブレインストーミング、マインドマップを用いた課題設定と解決方法	
	第4章 結果の分析	ディスカッションの進め方、トウミンモデルについて	
	第5章 成果をまとめる	・外部講師「フィールドワークのすすめ」及びフィールドワーク実施	
	第6章 成果を発表する	・外部講師「アントレプレナーシップと課題の見つけ方」	
	第2編 探究に用いる技能と実践例		
	第1章 実験・観察・調査に関する基本操作	・外部講師「心理アプローチによるイノベーション創出」	
3 学期	第2章 探究の実践例	・外部講師「ポストコロナの未来を切り拓くために」 ・外部講師「Be Smart Kobe プロジェクト」 ・外部施設訪問「理化学研究所」 ・外部施設訪問「アシックススポーツミュージアム」 ・大学訪問「京都大学研究室訪問研修」 ・大学訪問「大阪大学工学部研究室訪問研修」	
	第3編 探究に必要なその他の知識		
	第1章 統計学	・外部講師「38億人を救う数式について」	
	第2章 インターネットでの情報収集	・外部講師「減災復興学の視点に立つシミュレーションを活用した新たなまちづくり」	
	第3章 英語での発表	・外部講師「研究をすすめるレジリエンス力」 ・外部講師「グローバル社会における英語スピーチの持つ力」	

成績評価方法	授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題の内容により、観点別に評価を行う。
--------	---